

1. 評価結果概要表

作成日 2007年10月22日

【評価実施概要】

事業所番号	3072500410
法人名	社会福祉法人高瀬会
事業所名	グループホームもみの樹
所在地 (電話番号)	和歌山県東牟婁郡古座川町高瀬423-2 (電話) 0735-72-3322

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山市手平2丁目1-2
訪問調査日	平成 19年 9月 27日

【情報提供票より】(19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算	8人

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="radio"/> 併設 <input type="radio"/> 単独	新築/改築
建物構造	鉄骨耐火構造 造り	
	2 階建ての	2 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 780円			

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	0 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.3 歳	最低	76 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	那智勝浦町立温泉病院、医療法人潮岬病院、奥根歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者は利用者に、少しでも家庭に近い生活環境を整えるため運営推進会議や家族の意見・要望を積極的に取り入れるよう努力している。手作りの紙芝居で利用者が保育所を訪問する等、ホームが孤立する事なく地域と繋がっている。スタッフのミーティングからもその意気込みが感じられ、努力の様子が窺われる。ホームには利用者の語らいと笑い声があり、職員共、和やかな雰囲気が伝わってくる施設である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員の昼食は持参の弁当であったが、改善され、現在利用者と一緒に造り、同じ食事を楽しんでいる。また居室の名札に「・・・様」と表示されていたが 様を除き親しみやすいものとなっている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員間で話し合いを重ね、自己評価の意義を理解し取り組んでいる。前回の評価結果については家族や運営推進会議に報告し意見を頂く等の取り組みを行っている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議ではホームの状況報告や、課題の改善に向けた意見交換等を行っている。また、出された意見を積極的に取り入れるよう職員間で検討し運営に活かし、取り組み状況や結果を会議で報告している。畑仕事の指導や手伝い、食事会への参加、草履作り、そろばん、音読等、会議で出された意見を基に実施・計画を行っている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情・相談窓口を設置している。家族の方に運営推進会議参加を呼びかけ、家族の意見も聞ける機会となっている。また、出された意見を運営に活かすよう努めている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	施設の行事に地区老人会や地域の方々の参加があり、地域小学校運動会への参加、保育所への紙芝居訪問等、多くの機会を活用し地域と交流を行っている。積極的に地域との連携を図っている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時からの理念「いつも、明るく、笑顔の絶えないホームづくり」を職員は理解し、地域の方々との交流を大切にすることを常に話し合っている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は理念を理解し共有している。職員全員が笑顔で挨拶し暖かな雰囲気である。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設の運動会や盆踊り、敬老会等に利用者家族・地区老人会の参加があり、保育所には紙芝居を持参し訪問したり、地区のふれあいサロンへの参加やデイサービス利用者とも交流する等積極的に地域交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価共に掲示し、外部評価については家族に結果を報告している。頂いた意見について職員間で話し合い積極的に改善に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に自己評価・外部評価とも報告し、話し合いを行い、出された意見を積極的に取り入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への町職員の参加の他、体験実習の受け入れを行う等連携をとり、サービスの向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書を送付時、ホーム便りや利用者個々の様子を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に苦情相談窓口を明示したり、運営推進会議に参加を呼びかけ意見を聞いている。また、出された意見は積極的に取り入れるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が混乱しないよう残った職員でフォローしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に計画的に参加し積極的に取り組んでいる。研修参加後は報告書の提出や伝達を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のホームと研修会や電話等を通じて情報交換を行い質向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用については家庭訪問を行い、ホームを見学して貰うようお願いしているが、デイサービス利用からの移行が多く、職員、利用者が馴染みの関係がある。入居後は積極的な声かけを心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者中心とした一日の過ごし方であり、食事作りでは材料の良し悪しや仕込み方等、利用者が職員に教えたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言動や表情から推察し意向の把握に努めていて、利用者一人ひとりの気持ちを大切にしている。「昔住んでいた所に行きたい」と言う利用者にはその場所に行く等、利用者の希望が実現できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者のより良い暮らしを実現するため、家族や本人の希望を聞き取り、関係者とも連携し介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月毎にケアプランを見直し家族に報告している。また、「表情チェック表」を使用して利用者の変化に気をつけている。状況の変化があれば関係者と話し合いプラン変更は、いつでも出来るようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて施設内のデイサービス利用、外泊等を試みていいる等、柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を聞き、主治医や法人の外来受診を受けることが出来る。また、歯科、眼科は協力医により適切な医療が受けられる。家族が受診に付き添えない場合、職員が付き添う等支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や看取り介護について、今後の方針を家族やかかりつけ医と連携をとり、常に共有が出来ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は研修やマニュアルでプライバシー確保の徹底に努めている。利用者の個性を尊重し、プライバシーを損ねないよう状態に応じた声掛けをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの意思を大切にして、出来るだけ利用者の自由な意思で行動して貰えるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じ食事を取り、食事作りを共に楽しんでいる。食事は高齢者の楽しみの一つである事を念頭において、月一回嗜好調査を実施している。食材の調達は配達が多い。	○	食材の買出しを一緒に行う等食事の楽しみを広げる更なる工夫を期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は設定せず、その日の気分に合わせて入浴を行っている。温泉浴・ひのき風呂もあり、希望により毎日入浴も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者各々の生活歴、趣味等を活かし、農作業、園芸、貼り絵等楽しんでいる。また、紙芝居の発表や準備、音読プログラム等楽しみながら実施している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気がよければ毎日、併設施設への交流、周辺の散歩コース、畑、スーパーへの外出や散歩等戸外へ出かける支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はドア、エレベーターの施錠は行っていない。家族も自由に出入りしており、職員も拘束・制限の弊害を研修等により理解し、鍵のかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いのもと、法人全体の合同避難訓練等を行っている。また、マニュアルを利用した緊急時の対応、機器の使用訓練を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導でバランスの取れた食事を提供している。利用者一人ひとりの食事や水分の摂取量の状態を記録及び管理している。また写真による記録も行っている。一人ひとりの状態に合わせた支援に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は落ち着いた採光であり、季節を感じる花や植物で居心地のよい空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や趣味の品物が飾られ、使い慣れた家具が持ち込まれている等、落ち着いた居室である。		